

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製菓衛生師コース

看護科・看護専攻科

教育講演会

6月20日(土)、今年度第1回看護科教育講演会がありました。講師に順天堂大学医学部附属静岡病院看護教育課課長補佐の堀込克代先生をお迎えし、「現場が求める看護師像」と題して講演を頂きました。



講演中の
堀込克代先生

講演中の
竹迫英里先生



7月4日(土)、北九州YMCAの竹迫英里先生をお迎えし、ボランティア講習会がありボランティアとは、一般的に次の四原則で説明されている。(自主性・自発性)、(社会性・連帯性)、(無償性・無給性)、(創造性・開拓性・先駆性)多様かつ自由な発想に基づく、各種の優れた特性を有するボラン

ティア活動は、行政や企業等とともに、個人が社会の発展を支える主要な担い手である。ことを学びました。



健康福祉コース

特別講演会

7月4日(土)、特別講演会があり一般社団法人「生き方のデザイン研究所」の遠山昌子先生、赤嶺寛徳先生、高峯和子先生をお迎えし、1年生には「障がい福祉とボランティア活動」、2年生は「福祉のまちづくりとユニバーサルデザイン」と題して講演していただきました。ボランティア活動は、恵まれている者から恵まれない者へ、健康者から障がい者へ、裕福な者から貧困な者へということではなく、自立した市民による相互の活動であり、市民同士がお互い対等につながる活動である。お互いが平等な立場で協力し合える関係が大切であること。また、公平性や営利性にとらわれることなく自由な発想で、社会のあり方やまちづくりについての課題を提起し、自らの力で解決しようとする取り組みは、社会に新たな刺激をもたらす、社会を変革する先導的な役割を果たすと考えられることを学びました。

講演中の
遠山昌子先生



講演中の
赤嶺寛徳先生



第1回学校見学会



全体会



「よさこい」披露

7月11日(土)、今年度第1回学校見学会が行われ、280名を超える中学生や保護者の参加がありました。第1部では生徒会による学校紹介、第2部では各科コース別による授業体験があり、一足早く高校の授業を体験しました。参加生徒の感想に「楽しかった。」「応援団の迫力ある声やよさこいの演技に感動しました。」など学校の事や高校での授業が楽しく面白かったとの感想が多くみられ、次回も参加したいと書いてくれました。第2回は、9月19日(土)保護者対象入試説明会と同時に開催されます。



特別進学コース

保育コース



美容専科コース



製菓衛生師コース

7月8日(水)、2年生を対象に特別実習がありました。講師に宮部國男先生をお迎えしタルトフロマージュ(チーズのタルト)とウフ・ア・ラ・ネージュ(デザート菓子)の2種類の洋菓子を作りました。先生は、新宿京王プラザホテル、東京全日空ホテルを歴任され2003年より中村調理製菓専門学校の製菓実習担当部門長として活躍され、2015年に退職、本年度より本校の非常勤講師として指導して頂いています。

特別実習



指導中の宮部國男先生



学校見学会(予定)

- ・ 学校紹介
- ・ 授業体験
- ・ 校内見学
- ・ クラブ紹介
- ・ 進学相談
- ・ 入試対策 等

第2回 9月19日(土)

第3回 10月17日(土)

第4回 11月14日(土)

「草創期の黒田藩と栗山大膳」黒田家と宇都宮家の抗争⑩

ここ名護屋に全国から各大名が集結してきますが、諸大名の陣屋数は一六〇余に及び、配置された様は正に壯観の一語に尽きるものだったに違いありません。黒田長政の陣屋は現在の呼子町猿浦の辺りで、伊達政宗、毛利秀頼の陣屋と隣りあわせに造られていて、名護屋湾を挟んで名護屋城の対岸に設けられていたようです。文禄元年(1592)の一月には証明軍の準備を整え、一番隊から九番隊まで、十五万八千八百人の軍勢を編成して、半島通過の交渉を行います。既に、全国の諸将は名護屋に集結、三月には先鋒は壱岐・対馬に進み、待機していました。李朝は明の支配下にありましたから、李朝としては証明軍を無条件で通す訳にはいきません。李朝は抵抗します。ここで、文禄の役が起きることになります。当時、日本は種子島に伝来した鉄砲のおかげで、野戦には一日の長があつて、釜山に上陸した日本軍は容易に北上を続けます。五月には京城に入り、六月には平城を落とすと云う速さで半島を席卷していきます。黒田長政は豊後の大友義統と共に第三軍を構成、先発隊として渡鮮します。第三軍は総勢一万一千人、長政は五千余りを率いて戦いますが、時に長政二十五才でした。官兵衛孝高は長政が血気にはやっつて、異国の土にならぬようと、栗山善助等の老臣達に長政の身の安全をしかと命じて出陣させています。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大膳」より